

第2 実践事例

事例1 社会的事象の中にSDGsとの関連を見いだす事例

- 学年 第1学年
- 主な領域 (地理的分野) B 世界の様々な地域 (2) 世界の諸地域
- 事例のポイント
- ①SDGsと社会的事象を関連させた単元構成を工夫し、社会との関わりを意識して、課題を追究したり解決したりする活動の充実を図る。
 - ②ICT機器を活用することで、生徒一人一人の深い学びの実現につなげる。
 - ③情報を集約する学習活動を工夫することで、話し合い活動や生徒の考察の充実を図る。

1 小单元名 「アフリカ州」(4時間)

2 小单元について(略)

3 小单元の目標と評価規準

(1) 目標

- ・アフリカ州の地域的特色について理解する。
- ・諸資料を適切に選択してアフリカ州の地域的課題を考察し、その過程や結果を表現する。
- ・アフリカ州の地域的特色に対する関心を持ち、主体的に追究する。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
アフリカ州の自然環境や産業、生活・文化、歴史的背景などを大観し、アフリカ州の地域的特色を理解し、その社会的事象等の知識を身に付けている。	輸出用につくられるアフリカ州の農産物や鉱産資源、文化と歴史の特色を多面的・多角的に考察し、アフリカ州の地域的課題の過程や結果を適切に表現している。	アフリカ州の地域的特色について関心をもち、主体的に追究しようとしている。

4 小单元の指導計画・評価計画(4時間)

●「学習改善につなげる評価」 ○「評定に用いる評価」

時	学習活動等	評価の観点			評価規準(評価方法)
		知	思	態	
1 時間 目	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 本時の課題 アフリカ州には、どんな地域的特色があるのだろうか </div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ州のイメージを自由記述する。 ・主な国の位置や自然環境を確認し、アフリカ州を大観する。 				

1 時 間 目	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ州の特徴を示す資料を読み取り、既習事項を活用し、アフリカ州の特色をつかみ、単元を貫く問いを設定する。 <p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハンガーマップ（栄養不足人口の割合） ・鉱産資源の分布と産出国 ・識字率 ・GDP ・経済発展を示す写真と紛争の写真 <p>【既習事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジア州…豊富な資源と人口増による経済発展 ・ヨーロッパ州…SDGsの平均達成度がアフリカ州より高い 		<ul style="list-style-type: none"> ● ●アフリカ州の地域的特色について関心を持ち、主体的に追究しようとしている。（観察・ワークシート）
<p>単元を貫く問い アフリカ州の経済格差が大きいのはなぜだろうか</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> ・単元を貫く問いの答えを予想し、課題解決への見通しを立てる。 		<ul style="list-style-type: none"> ● ●単元を貫く課題に対して、自分なりに予想し、課題解決への見通しを立てている。（振り返りシート）
2 時 間 目	<p>本時の課題 アフリカ州の産業には、どのような特色と課題があるのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カカオやコーヒーを例に、歴史的背景からプランテーション農業が広く行われていることを知る。 ・鉱産資源の分布や、鉱産資源が輸出に占める割合が高い国があることを資料から読み取る。 ・アフリカ州の主な国の貿易や国際市場価格の推移等のグラフから、国の経済が特定の一次産品の輸出に頼るモノカルチャー経済の仕組みと問題点について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ● ● ● 	<ul style="list-style-type: none"> ● ●基礎的・基本的な社会的事象を理解している。（デジタルドリルアプリ） ● ●アフリカ州の経済について、諸資料に基づき表現することが出来ている。（ワークシート）

編P50 指導計画作成の留意事項(9)

事例のポイント①
本単元だけでなく、年間を通じて視点の1つとして扱いながら課題へとつなげていく。

編P50 指導計画作成の留意事項(6)

<p>3 時 間 目 (本 時)</p>	<p>本時の課題 アフリカ州の経済格差が国ごとに大きいのはなぜだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自然環境」「経済」「生活環境」「歴史的背景」の内容が読み取れる資料を配布し、読み取る。 ・SDGs の 17 のゴールにふれ、諸資料がどの目標に関連しているかを考えさせる。 ・個人で PREP 法を用いて、自分の考えをまとめ、表現する。 ・まとめる際にホワイトボードアプリを使用して、読み取った内容を整理する。 ・地理的な見方・考え方を働かせて、社会的事象と経済格差との関連を考察させる。個人で考察した後は、グループごとに KJ 法を用いてまとめる。 ・各グループでまとめた内容を発表し、自分のグループにはなかった考えをみつける。 			<p>事例のポイント③ 定型化した学習活動を取り入れることで、効率よく意見をまとめることができる。</p> <p>事例のポイント② 意見を出しながら、集約をすることが可能なため、話し合いが可視化されやすく効果的である。</p> <p>● ●アフリカ州の経済格差について、その特色を諸資料に基づき表現している。(観察・ワークシート)</p>
<p>4 時 間 目</p>	<p>本時の課題 アフリカ州で経済発展を遂げた国はどのような取組を行ったのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 端末を活用し、グループごとに、経済発展を遂げた国の取組を調べる。 ・経済発展を遂げているか判断する際には、SDGs の 17 のゴールの内いくつかを取り上げて指標とする。 ・調べた事例を、関連のあるものをつないだり、囲んだり、矢印で示したりしながら構造化する。 ・単元を貫く問いについて考えをまとめるその際、日本とのつながりや公民的分野で学習する内容との関連を意識しながらまとめさせる。 <p>事例ポイント② レポート作成は ICT 端末を使用し、Google classroom に提出させる。書き直しや、教師による採点や助言がすぐに行えるため効果的である。</p>	<p>○ ○</p>	<p>○ ○</p>	<p>○地理的な見方・考え方を働かせたり、歴史的背景等に注目したりしながら課題の答えを適切に表現している。(レポート)</p> <p>○小単元の学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見いだしている。(振り返りシート)</p>

5 本時の学習指導（3／4時間）

(1) 目標

- ・アフリカ州の課題について、多面的・多角的に社会的事象と関連付けながら考察し、表現する

(2) 展開

学習活動等	・指導上の留意点	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">観点</div> 具体の評価規準
1 前時までの学習と本時の学習活動の確認	・既習事項を確認し、本時で学習する内容を伝え、本時の課題をつかませる。	
<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">本時の課題</div> アフリカ州の経済格差が国ごとに大きいのはなぜだろうか		
2 複数の資料から、アフリカ州の課題を読み取り、まとめる。 ・「自然環境」「経済」「生活環境」「歴史的背景」に関する資料を配布し、内容を読み取る。 ・SDGsの17のゴールにふれ、諸資料がどの目標に関連しているかを考えさせる。 ・PREP法を用いて、自分の考えをまとめ、表現する。 3 グループでまとめる。 ・地理的な見方・考え方を働かせて資料から読み取った社会的事象と経済格差との関連を考察する。 ・まとめる際にはホワイトボードアプリを使用し、KJ法を用いて読み取った内容を整理する。 ・他者の意見を聞いて、自分の考えを深める。 4 グループでのまとめを発表する ・各グループでまとめた内容を発表し、自分のグループにはなかった考えをみつける。 5 個人のまとめ ・本時の課題についてまとめる。 6 振り返り ・振り返りシートを記入する。	・配布する資料の例 自然環境：干ばつの様子、国境線、地形図、雨温図等の資料 経済：家計に占める食費の割合、作物の収穫量、GDP、貿易等の資料 生活環境：難民、飢餓率、飲料水、平均寿命、出生率・死亡率、教育、乗用車の所有率、医師数等の資料 歴史的背景：年表、植民地支配等の資料 ・マイナスイメージだけに偏りすぎないように、前時までの学習も踏まえてまとめるよう助言する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">思・判・表</div> アフリカ州の経済格差について、その特色を諸資料に基づき考察している。(観察・ワークシート)
まとめ（例） 十分な食料生産や資源に恵まれた国がある一方、気候変動の影響が大きかったり、教育や医療の水準が低かったり、経済発展を妨げる要素を複数抱える国もある。そうした国々はSDGsのゴールの達成が難しく、経済的に不安定で貧困の連鎖が続いているため、経済格差がなかなか解消しない。		

6 板書計画

単元を貫く問い アフリカ州の経済格差が大きいのはなぜだろうか	
課題 アフリカ州の経済格差が国ごとに大きいのはなぜだろうか	
 <p>SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 持続可能な開発のための17の目標</p>	配付した資料を掲示

7 事例のポイントと考察

(1) 事例のポイントについて

- ① SDGs と社会的事象を関連させた単元構成を工夫し、社会との関わりを意識して、課題を追究したり解決したりする活動の充実を図る。

SDGs(Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標)とは、「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標である。学習指導要領では、生徒が豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手となることを期待されており、社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動を充実し、地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度などを育てていくことが求められている。

本単元のアフリカ州の地域的特色は、経済問題と歴史的背景が絡み合うものが多い。また、2020年のSDGs達成度を世界の地域別にみていくと、最も達成度の低かった地域がアフリカ州であった。特に項目1に挙げられる「貧困」のテーマでは、他地域と比較し、差が顕著にみられる。そのため、北アメリカ州に次いで2番目に達成度が高いヨーロッパ州の学習をアフリカ州の学習に先立って行った。ヨーロッパ州でもSDGsに触れながら授業をした。アフリカ州でも、SDGsを1つの視点として示しながら授業を行うことで、ヨーロッパ州で学んだことを活用できるよう工夫をした。

- ② ICT機器を活用することで、生徒一人一人の深い学びの実現につなげる。

本事例では、話し合いの際にホワイトボードアプリを使用したり、生徒のまとめを行う際にGoogle Classroomを使用したりした。教師が提示した資料を加工したり、選択したりしながら、自分の意見を加えて全員に提示することができ、また、話し合いを行う上で生徒が自分の意見を発言する際に活用したり、複数人で同時に作業することも可能である。

単元の終わりにレポートを作成する際にも、ICT端末を用いることにより、文章の練り直しが容易となる。また、作業途中であっても教員が進捗を確認できるため、生徒の状況に応じた助言をすることが可能となり、より生徒一人一人の個に応じた形で深い学びの実現へとつなげることができる。

- ③ 情報を集約する学習活動を工夫することで、話し合い活動や生徒の考察の充実を図る。

本事例では、(ア)ステップチャートの形式でPREP法による意見のまとめ (イ)KJ法による意見の集約を中心とした学習方法を行った。生徒が自由記述で自分の意見をまとめる際や、多

くの意見を分類することが難しい場合に有用であると考え。

(ア) ステップチャートの形式でPREP法による意見のまとめ

PREP法とは、「Point」「Reason」「Example」「Point」の順番で文章構成を行うもので、それぞれ以下の内容を記述する。意見を出す際の定型的な流れを決めておくことで、自分の意見をまとめる上で不足している要素が可視化され、次の作業が明確化される。短時間で論理的な意見を練り上げる上で有用である。プレゼンテーションアプリ等を用いて発表活動を行う際にも、この方法を用いることで発表準備を効率的に行うことができ、生徒の話し合い活動や考察の時間をより多く取ることができると考えられる。

Point	主張したい結論、要点を記述する。 例：「私は～～だと思う。」「私は〇〇の意見に賛成です。」
Reason	結論に至る理由を記述する。 例：「このデータから〇〇であることが分かる。」「この資料から△△であるから、□□であることがいえる。」
Example	理由を裏付ける具体的な例を記述する。 例：「例えば、埼玉県では〇〇なため、同じ特徴をもつ△△県でも同じことがいえます。」「実際に□□の例があるため、☆☆もうまくいくと考えられます。」
Point	文章のまとめとして、もう一度主張したい結論、要点を記述する。 例：「以上のことから、私は～～であると思います。」「よって、私は〇〇の意見に賛成です。」

(イ) KJ法による意見の集約

本単元では、関連する資料を生徒に読み取らせ、複数人で情報やキーワードをまとめる作業を行う。その際、多くの情報が出されることが想定される。情報量が多くなることで、課題の本質を見つけたり、情報の共有をしたりする活動に時間をかけられず、本時の課題や単元を貫く課題に取り組む時間が不足することが懸念される。そこで、KJ法を活用し、生徒の意見や情報を整理し、まとめる活動をスムーズに行わせ、課題の追究に十分取り組めるようにした。KJ法とは、様々な情報を整理し、まとめていく上で活用する方法である。一般的には、情報やキーワードをふせんやカードに書き、関連性のあるものをグループ化することで大量の情報を可視化しながらまとめる際に役立つとされている。以下、KJ法の取り組み方を記述する。

①情報の読み取り	課題やテーマに対し、教師が提示した資料の読み取りを行う。どのような内容のものか、資料ごとの類似点、相違点を見つける活動を行う。発見した情報をふせんやカードに記述し、全員が分かるように提示する。大きな台紙に貼り付けたり、ホワイトボードアプリ等を活用したりして提示すると効果的である。
②小グループ化	情報のふせんやカードから、関連した内容のものを2・3枚ごとに分類する。分類したものにはタイトルをつけ、どのような属性であるかを明示する。分類できないものはあえてそのまま残しておくことで、新たな視点の発見につながることもある。
③大グループ化	分類したものをさらに大きな枠組みへと整理する。資料の内容にもよるが、4～8グループ程度にまとめていくようにする。

④グループの 関係整理	大グループごとに関連性が強いものを近づけ、弱いと思われるものを遠ざける。その後、その関係性を記号などで明示する。 例：類似の関係性 原因と結果の関係性 対立する関係性
----------------	--

(2) 実践にあたっての留意点

本単元では、社会的事象の中に SDGs との関連を見いだす観点から事例作成を行った。学習指導要領では、地理的な見方・考え方を働かせながら主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して行われることが明示されている。その中で、世界各地で顕在化している地球的課題についての記述がある。この地球的課題の視点は、学習指導要領では「世界の諸地域」における追究の視点として位置づけることを意図したものであるとされており、本事例のように SDGs を参考にしながら生徒に探究的な学習活動を行うことが効果的であると考えている。

なお、生徒にとってアフリカ州の学習はややもするとネガティブなイメージが強くなってしまふことがある。アフリカ州全体を見れば経済的な発展を遂げている国も少なくない。これからの発展の可能性を十分に秘めた地域であり、ポジティブな視点で未来を捉えさせることも必要である。